

授業者 T1 林 多恵子
T2 天野佳代子
小学校1年2組教室

1 単元名 ことばでつたえる 「えほんランドへようこそ！」

2 授業構成

(1) 教師と教材

「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」であるとして、子どもが自主的な読書活動を行うことができるように積極的に環境を整えるために「子どもの読書活動推進に関する法律」(平成13年)が施行された。このように、読書は、全ての教科の基礎学力に関わるだけでなく、情緒力の形成に欠くことのできない大切なものである。また、鳥取県の児童は、都会に住む児童と比べて文化に触れる機会が少なく、本という文化に触れる経験をたくさん持たせたいと思いがあふれる。しかし、ただ読みなさいと指導するだけでは、児童が進んで本を手にとって読もうという気持ちにはならない。本を読むことが楽しいと思えるためにはどうしたらよいか、一人で読書を楽しむ子どもから共同体での本を通じた知的交流が楽しいと思える子どもへ育てるにはどうしたら良いかというところから、この単元は生まれた。

新学習指導要領では、思いや考えをまとめることを「C読むこと」に位置づけ、自分の思いや考えをまとめ発表し合う交流が新設された。また、本や文章を選ぶことも明記された。本単元は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

A話すこと・聞くこと

- (1) ウ 姿勢や口型、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりとした発音で話すこと。
- (2) エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。

C読むこと

- (1) ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
 - エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。
 - カ 楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読むこと。
- (2) オ 読んだ本について、好きなどころを紹介すること。

鳥取県では、小学校における朝読書の実施率が小学校で97% (平成22年6月11日現在朝の読書推進協議会調べ) と高い水準で定着している。本校でも、週2回の朝読書と週1時間の読書の時間、月1回の保護者の組織する「おはようおはなしの会」による読み聞かせボランティアなどを行っている。また、本校では図書館に専属の図書館司書がおり、週1時間の図書時間に様々な活動を行っている。低学年の児童は、それらの時間を楽しみにしており、喜んで読み聞かせを聞いたり本を借りたりしている。この恵まれた環境を生かした学習を行いたい。

本時の学習では、グループごとにカテゴライズしたテーマに沿って自分が選んだ本を、友達や参観されている方にアピールするという活動を中心に授業を構成する。その際、テーマに従って自分が選んだ本をどのように紹介すれば、本の良さが聞いている人に伝わるのか、また、実際に読んでみたいと思わせることができるのかという視点で活動を考え、授業を構成していく。

(2) 子どもと教師

本校国語科では、児童の意欲を喚起する学習材の工夫・開発を行い、児童の「ことば」に対する感性を磨き、深く追求する力を育てていくことに取り組んでいる。児童が主体的に学習に取り組み、学習を進めていくために、意欲や関心が高まるような学習材を開発し、児童との話し合いを通して

ともに学びを創ろうとしている。

1年生は、入学までに幼稚園・保育園、家庭などで読み聞かせを聞く経験をたくさんしてきた。しかし、それらは、自分自身が読みたい本を選び、自分で読み、その本に自分から思いを寄せるといふ主体的読書とは言えない。また、国語科以外でも「ことば」を大切にしたい学習を心がけてきたが、自分の考えや思いや想像したことを「ことば」を通して相手によりよく伝えるためには、適したことばを使いこなす感性と表現力が必要である。それらを養うために、読書の果たす役割は大きいと考える。さらに読書は、読んでわかったことを生活の中に活かして用いることができたとき、また本を介して人とコミュニケーションがとれたときにさらに豊かな読書になるといえる。児童に「役に立つ読書」「使える読書」のできる力をつけさせるためにはどうしたらよいかということが、この単元のテーマである。目的意識をもって絵本を読み、紹介の仕方を友達と話し合ったり読書の感想を話し合ったりすることを通して、絵本の楽しさを味わい、意欲を持って取り組むことができるようにしたい。そして、この単元の学習を通して、図書館司書と連携して読書に親しめる環境を整え、今後の豊かな読書活動につなげていきたい。

「読むこと」に関しては、児童は、これまでに「おはなしききたいな」や「てがみ」で、場面の様子や展開、登場人物の気持ちを想像しながら物語を読んできた。また、「どうぶつのはな」で、文章のまとまりを意識しながら書かれている事柄を正しく読み取る学習も行った。さらに、国語科の学習だけでなく、他教科・領域の学習や、朝自習などでも本を読む機会を多く取るようにしたところ、文字を読むことへの抵抗も少なくなってきた。けれども、その本を選んだ理由を説明したり、本を読んだ感想を詳しく言えたりする児童は少ない。「話すこと・聞くこと」に関しては、普段の学習の中だけでなく、いろいろな場面を通して指導しているが、1年生は話したい気持ちは強い反面、友達や教師の話聞いていなかったり、早合点してしまい内容を理解していなかったりということも多い。また、言葉で自分の思いを伝えることの苦手な児童が多い。そのため、意見や感想を交流したり、質問したりというような「コミュニケーション能力」については、まだまだこれから指導が必要である。

本単元の学習においては、自分たちが決めたテーマを基に本を選び、読書に対する興味を持たせ、さらに読書の楽しさを味わわせたい。これまで経験してきた一人で楽しむ一人読書から、本を介して他人と話ができる・活動するために本を読むという読書活用能力を高める読書ができる子どもへ育てていきたい。そのためには、カテゴライズしたテーマに従って自分が選んだ本を一番身近で親しい存在である家の人に紹介することで意欲を高め、いろいろな場面で相手意識を持って、コミュニケーション能力を高めていきたい。

(3) 子どもと教材

入学して3か月経ち、学校生活に慣れ、学習の決まりを覚えたりひらがなや10までの数字を覚えたりしたばかりの1年生である。ようやく45分間座って学習ができるようになってきた。本学級の児童は、本を読むことが大好きで、進んで本を手に取り読書を楽しんでいる。登校後朝自習前や休憩時間にも学校図書館に行ったり、教室の学級文庫の本を読んだりしている児童も多い。図書時間等での読み聞かせを楽しみにしており、楽しんでお話を聞いている。しかし、読む力は個人差が大きい。少し長い絵本でも速く読める児童もいれば、絵を目で追うだけだったり、たどたどしく声に出さないと読めなかったりする児童もいる。学校図書館での貸し出しの様子を見ても、なかなか本を選べなかったり、題名や表紙だけ見て選んだりしている児童が多い。文章理解についても大まかな意味は理解できるが、細かい読み取りを苦手としたり、勘違いして読んだりする児童もいる。また、進んで発表できる児童もいるが、消極的な児童が多く、友達との雑談はできるが人前で話をするには抵抗を感じるという児童が多い。

このような児童の実態を踏まえ、児童が自分で本を選んだり、読書を楽しんだりできる教材を開発し、自分たちの決めたテーマに沿った本を選び、進んで読み、それを紹介すること、聞いてくれる相手にわかりやすくはっきりした発音で話すというねらいを設定した。この単元の学習を通して、たくさんある学校図書館の本の中から自分で本を探したり、楽しんで本を読んだりすることによって読書の楽しさを味わわせたい。さらに、好きなところを選んで友達と伝え合ったり家族に伝えたりすることの喜びや楽しさを感じさせると同時に、どのようにすれば自分たちが選んだ本の良さがうまく伝わるようになるかを1年生なりに考えさせたい。単元名は、児童と話し合っただけで決めたのだ

が、児童は生活科でも「わくわくランド」という名前を付けたことから、ランドという言葉にわくわくしたり楽しんだりするところというイメージを抱いているようである。このわくわく感を、単元を通して持たせ続けたい。

本時の学習では、グループごとに自分たちが選んだ本を友達や参観されている方にアピールするという活動を中心に授業を構成する。その際、自分たちが選んだ本をどのように紹介すれば本の良さが聞いている人に伝わるのか、また、実際に読んでみたいと思わせることができるのかという視点で活動を考え、授業を構成していく。そこで、本時の課題を次のように設定した。

◎じぶんがえらんだほんを、よんでもらえるようにしようかいしょう。

上記の問題に対して児童は次のような活動を行うものと予想される。

A 自分の選んだ本を、誰にでも工夫して自分なりの言葉で紹介しようとしている。

B 自分の選んだ本を、親しい友達と紹介しあおうとしている。

C 自分の選んだ本を、友達に紹介しようとしている。

本時の児童の活動に対する支援としては、次のようである。Aでは、友達だけでなく参観者にも自分の選んだ本を紹介するように促し、いろいろな人に伝えることの喜びを感じさせたい。さらに、書いていただいたメッセージをもとに本を介した話を楽しめるようにさせたい。Bでは、自分のグループ以外の友達に、自分の選んだ本を相手に伝わる声の大きさやはっきりとしたしゃべり方で紹介するように助言し、話すことに自信をつけさせたい。Cでは、まず自分の選んだ本に愛着をもたせ、友達に紹介させるようにしたい。

3 単元の見積

- ・自分たちの決めたテーマに沿った本を選び、進んで読もうとする。
- ・自分たちの選んだ本を読んでもらうという目的を持ち、それにあった紹介の仕方を考え、発表することができる。
- ・相手にわかりやすく、はっきりした発音で話すことができる。

4 学習計画（全10時間）

第1次 自分たちの選んだ本を紹介することを知り、学習計画を立てる。（1時間）

第2次 選ぶ本のテーマを決め、本を集める。（1時間・図書の時間1時間）

選んだ本をどのように紹介するか考える。（3時間・図書の時間1時間）

友達の発表を聞いたり、友達に本を紹介したりする。（1時間）・・・本時

学習参観日に家の人に、自分の選んだ本をアピールする。（1時間）

第3次 友達が紹介した本を読み、自分の感想を持つ。（1時間）

5 本時について

（1）本時目標

- 友達同士で本を紹介したり、友達の紹介の良さを見つけたりすることができる。
- 聞き手にわかりやすいように、はっきりと大きな声で話すことができる。

（2）期待される児童の様相

- A 自分の選んだ本を、誰にでも工夫して自分なりの言葉で紹介しようとしている。
- B 自分の選んだ本を、親しい友達と紹介しあおうとしている。
- C 自分の選んだ本を、友達に紹介しようとしている。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援)

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図																		
<p>1 今日の学習課題を明確にする。</p> <p>2 T2の行う本の紹介をみる。</p>	<p>○本時の活動を確認し、各自の学習のめあてを持たせる。</p> <p>○教師が最初にやってみせることで、自分たちもやってみようという意欲を持たせたい。</p> <p>◇T2による紹介を、楽しんで見られるようにようにする。</p>																		
<p>◎じぶんがえらんだほんを、よんでもらえるようにしようかいしよう。</p>																			
<p>3 自分たちのグループの中で、お互いに紹介しあう。</p> <table border="1" data-bbox="223 779 778 1131"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>紹介する方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①わくわくシティ</td> <td>ペープサート</td> </tr> <tr> <td>②うたのまち</td> <td>アニメーション</td> </tr> <tr> <td>③どうぶつのまち</td> <td>紙芝居</td> </tr> <tr> <td>④もりのしま</td> <td>音楽</td> </tr> <tr> <td>⑤むしのまち</td> <td>クイズ</td> </tr> <tr> <td>⑥だじゃれタウン</td> <td>パネルシアター</td> </tr> <tr> <td>⑦おばけのまち</td> <td>劇(動作化)</td> </tr> <tr> <td>⑧はなばたけおうこく</td> <td>パネルシアター</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 友達や参観者を相手に紹介し、一言カードによかったところを書いてもらう。</p> <p>5 今日の学習をふり返る。</p>	テーマ	紹介する方法	①わくわくシティ	ペープサート	②うたのまち	アニメーション	③どうぶつのまち	紙芝居	④もりのしま	音楽	⑤むしのまち	クイズ	⑥だじゃれタウン	パネルシアター	⑦おばけのまち	劇(動作化)	⑧はなばたけおうこく	パネルシアター	<p>○同じテーマでもいろいろな本があることを知らせる。</p> <p>◇テーマの同じグループ内で紹介し合うことにより、友達の紹介を参考にしながら自分の紹介をするように声をかける。</p> <p>◇一言カードに、励ましの一言を書くように指示する。</p> <p>◇紹介した後で、「ありがとう」と言ってもらうことで、相手に聞いてもらうことの喜びを味わわせたい。</p> <p>◆できない児童には、そばに行って教師と一緒に話をしたり、はっきり話して聞きやすい紹介をしている児童を紹介したりする。</p> <p>◆書くことが苦手な児童には、短い言葉で一言書けばよいことを伝える。</p> <p>○お礼の一言カードにお礼や励ましの一言を書いてもらうことにより、他のグループの友達や参観者の方々に紹介したいという意欲を高める。</p> <p>◇お互いに正確に聞いたり話したりすることが、相手のことを大切にしていることだと気づかせたい。</p> <p>○できるだけたくさんの人に聞いてもらい、たくさんほめてもらうことで、本を介したコミュニケーションが積極的にとれるようにしたい。</p> <p>◇相手の表情を見ながら、自分の言葉が伝わっているか確認しながら話すように声かけをする。</p> <p>◆なかなか自分から話しかけることのできない児童には、教師と一緒に付き添って紹介する。</p> <p>○本時の学習をふり返り、次時のめあてを持たせ、意欲的な学習へとつなげたい。</p>
テーマ	紹介する方法																		
①わくわくシティ	ペープサート																		
②うたのまち	アニメーション																		
③どうぶつのまち	紙芝居																		
④もりのしま	音楽																		
⑤むしのまち	クイズ																		
⑥だじゃれタウン	パネルシアター																		
⑦おばけのまち	劇(動作化)																		
⑧はなばたけおうこく	パネルシアター																		